参加者100名を超える人気イベントに 渡良瀬遊水地のねぐら入り観察会

内田孝男
（日本野鳥の会栃木）

本州以南で最大の湿原面積33㎢を持つ渡良瀬遊水地、そのうち約15㎢という広大なヨシ原が、ツバメたちの格好の生息場所だ。日本野鳥の会栃木がねぐら入り観察会を始めたのは、1999年。当時結成30周年を迎えるにあたり、一般向けにツバメの生息調査を行なうこととなった。この時、遊水地で標識調査を行なっているメンバーから、「9月上旬にすごい数のツバメがねぐら入りする」との情報を得て、「栃木支部でねぐら入りの様子を見てみよう」というのがきっかけである。

開始から数年間の参加者数は20名前後。その後口コミで徐々に広まったと思われ、2012年には渡良瀬遊水地がラムサール条約に登録されたことや、栃木県支部もツバメのねぐら入りを「売り」にしてきたこともあり、近年は参加者が急増し、その数が100名を超えることもある。

午後5時に集合後、ねぐら場所に向かう。いつの間にか湧いてくるツバメたちが繰り広げるドラマは、15分程度で数万の数になる。初めての参加者は、「ここに数万羽が集結しているとは驚いた」「見たことがない、すごい数だ」と口をそろえる。

野鳥と人との共生で、身近なツバメの観察は大変有意義である。そのねぐら入りは見る人に感動を与えるが、広大な遊水地は車移動が必須で、多数の車の駐車や路肩の草刈り、安全確認など、運営上の課題もある。

午後5時、諸注意などを伝えた後、観察場所へ向かう

飛来するツバメを待つ。この後、あっという間に数万羽になるツバメの乱舞に、驚きの声があがる